



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 片寄 正樹

秋の訪れとともに、学生たちも後期の講義や演習、臨床実習など、それぞれの学びに取り組む時期を迎えています。保護者・ご家族の皆さまには、日頃より本学部の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、前号でもご紹介しました本学部同窓会は、本年、設立40周年という大きな節目を迎え、8月1日に記念式典・祝賀会が開催されました。当日は多くの同窓生や関係者が集い、40年の歩みを振り返るとともに、卒業期や学科の垣根を越えた交流が広がる、まさに同窓会のつながりを実感する機会となりました。記念企画では、小野伸二氏らによるトークセッションも行われ、挑戦を続けることの大切さについて、印象深いお話を伺うことができました。私自身、式典・祝賀会を通じて多くの同窓生とお会いし、改めて本学部卒業生の活躍の幅広さを実感しました。第一線の医療現場でチームや組織を牽引するリーダー、大学教授として教育・研究を担う方、研究機関で新たな知見の創出に取り組む方、さらには地域行政において保健医療部門の部長職として施策を担う方など、その活躍の場は実に多彩です。専門職として培った知識と経験を礎に、それぞれの立場から社会を支えている卒業生の姿は、本学部にとって大きな誇りです。

現在、短期大学部、保健医療学部、大学院、専攻科を合わせ、3,000名を超える同窓生が北海道内外のさまざまな領域で活躍しています。こうした先輩方の歩みは、在学生にとって、自らの将来を描くための大切な道標でもあります。大学での学びは、国家資格の取得がゴールではありません。専門性を確かな基盤としながら、自らの可能性を広げ、医療、教育、研究、行政など、それぞれの場所で新たな役割に挑戦していく。その出発点が、本学部での学びであってほしいと願っています。

本学部はこれからも、同窓生とのつながりを大切にしながら、学生一人ひとりが自らの未来を切り拓き、社会に貢献できる保健医療人へと成長できる教育環境づくりに努めてまいります。保護者・ご家族の皆さまには、引き続き本学部の教育活動へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



【令和8年度 前期学事 実施報告】（1～4学年）

（4学年共通）

4月 6日 ～ 前期講義開始
4月 8日 ～ 4月10日 「保健医療総論 1～4」
6月25日 大学記念日

（3年生）

8月 3日 ～ 8月28日 夏季休業
8月31日 ～ 9月11日 前期定期試験

（1・2年生）

8月 3日 ～ 8月28日 夏季休業
8月31日 ～ 9月11日 前期定期試験

（4年生）

4月13日 ～ 7月17日 臨床実習（作業）
5月 7日 ～ 7月31日 臨床実習（理学）
7月21日 ～ 7月31日 夏季休業（作業）
7月21日 ～ 7月24日 前期定期試験（看護）
7月27日 ～ 9月 4日 臨地実習（看護）
8月 3日 ～ 8月28日 夏季休業（理学）
8月10日 ～ 8月21日 "（看護）



行事紹介

令和8年度保健医療学部「保護者説明会」

教務委員長 太田 久晶

8月30日（日）、本学部におきまして、令和8年度保健医療学部保護者説明会を開催いたしました。当日は例年になく涼しく過ごしやすい気候の中、3学科合わせて47名の保護者の皆様にご参加いただきました。皆様と直接お会いできる貴重な機会となりましたことを、大変嬉しく思っております。

第一部の学部説明会に先立ち、山下敏彦学長、片寄正樹保健医療学部長よりご挨拶をいただきました。続いての全体説明会では、教務委員長の太田より、学部教育について説明いたしました。本学の建学の精神や教育理念、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を紹介するとともに、保健医療学部における学びの体系について説明しました。また、学生支援については、学生担当教員制度や学生支援ハンドブック、保健管理センターについて紹介しました。さらに、保護者の皆様へのお願いとして、学生の学業や心身の状態について日頃から関心をお持ちいただくこと、必要に応じて大学と連携していただくことをお願いしました。続く第2部の学科説明会では、各学科会場に分かれ、それぞれの専門領域の概要や教育理念、カリキュラム・教育の特色について、各学科長より説明が行われました。あわせて、国家試験の合格率や就職、進学（大学院・専攻科）など、各学科の特色についても紹介されました。

学科説明会の終了後には、第3部として、ご希望の保護者の皆様を対象に学内施設の見学ツアーを実施しました。図書館のほか、各学科の演習室や実習室など、本学の教育環境を直接ご覧いただきました。また、個別相談では、保護者の皆様から寄せられた質問や相談に対して、副学生担当教員・副学生担当教員補佐が対応しました。

なお、当日ご都合によりご参加いただけなかった皆様や、内容を改めて確認されたい方のために、全体説明および学科説明を録画した動画によるオンデマンド配信を実施いたします。詳細は、下記「保護者説明会オンデマンド配信のご案内」をご覧ください。

本学部では、今後とも保護者の皆様との連携を大切にしながら、学生一人ひとりが医療人として大きく成長できるよう、教職員一同、全力で支援してまいります。引き続き、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



保護者向け情報のため非公開

講義・演習紹介

キャリアデザイン

（看護学科
教授 長谷川 真澄）

3年次前期の必修科目「キャリアデザイン」は、2021年度より開講した3学科合同科目です。本科目では、変化の激しい社会の中で、各々の専門職としての役割や能力を発展させつつ、自分らしさを失わずに生きていくために必要なキャリアデザインの理論や考え方を学び、自らの将来やキャリアプランを考えることを目的としています。

8回の授業は、講義に加え、卒業生の講話やインタビュー演習、キャリアマップの作成と共有のグループ学習で構成しています。卒業生の講話では、卒業後から現在までのキャリアの軌跡について、各専門職の仕事内容だけでなく、大学院進学、海外協力隊、結婚・子育てなど、それぞれの人生の節目にどのように考え選択したのかを率直に語っていただいています。また、卒業生へのインタビューでは、様々な専門領域で活躍する先輩に、学科別の小人数グループで直接話を聴き、学生からの質問に答えてもらいます。



卒業生へのインタビュー

授業終了後のコメントでは「実際に働いている方の話を聞くことで、今まで視野になかったキャリアを知ることができた」「病院で働く以外の道をあまり知らなかったが、将来の幅がとて広がる授業でおもしろかった」「マインドマップの共有では、自分の価値観や将来のビジョンを言葉にして人に説明することで、頭の中が整理された」「目指す目標に向かって勉強を頑張ろうと改めて思うきっかけになった」「自分のキャリアは未だ漠然としており不安な気持ちを抱えていたが、それが少し解消された」などがあり、学生が将来についての考えやイメージを深めていく機会となっています。



卒業生の講話

保健医療総論 1

(看護学科 教授 澄川 真珠子)

本科目は、保健医療学部1年生を対象とした多職種連携教育の導入科目です。看護学科、理学療法学科、作業療法学科の学生が学科の枠を超えて共に学び、将来の医療人に求められるコミュニケーション能力や倫理観の基礎を身につけることを目的として実施しています。今年度は、4月8～10日に、多様な形態で学習活動を行いました。

初日は、学生同士の自己紹介から始まり、接遇マナーに関する学習やロールプレイング演習、メールやお礼状の書き方の講義を通して、相手を尊重したコミュニケーションの基本を学びました。また、翌日に実施するインタビュー演習に向けて、グループで協力しながら企画書の作成や質問内容の検討に取り組みました。

2日目には、「関係性を大切にするコミュニケーション～ユマニチュードの哲学から～」をテーマとした講演を聴講し、人の尊厳を大切にする関わり方について理解を深めました。その後、学生たちは大学の教職員へのインタビュー演習を実施し、事前に準備した質問をもとに対話を行いながら、礼節ある態度や傾聴、質問技術などを実践的に学びました。

最終日には、インタビューを通して得られた学びをグループごとにまとめ、報告会で発表しました。質疑応答を通じて他グループとの学びを共有するとともに、自らのコミュニケーションの課題や成長について振り返る機会となりました。インタビュー協力者からは、学生の礼儀正しい態度や積極的な質問姿勢、相手の話を丁寧に聴く姿勢が高く評価されました。

近年、医療現場ではAIや医療DXの活用が進んでいますが、患者さんやご家族の思いに寄り添い、多職種が協力して支援を行うためには、人と人との信頼関係を築く力が欠かせません。本授業は、学科を超えた仲間との協働や教職員との交流を通して、医療専門職としての土台となるコミュニケーション能力を育む貴重な学習機会となっています。今後も学生たちが多職種連携の重要性を理解し、人を大切にする医療を実践できる人材へと成長していくことを期待しています。



インタビューの様子



発表会の様子

保健医療総論 4

(作業療法学科 准教授 中島 そのみ)

本科目は、保健医療学部の特色ある学びである「多職種連携教育」を構成する保健医療総論1～4の集大成として、4年次前期に開講される科目です。学習目標は、保健医療に携わる看護師、理学療法士、作業療法士の相互理解を深め、各職種の役割と専門性を踏まえたチームアプローチの重要性を学び、適切なチーム構築の方法を修得することです。

授業は新学期開始直後の3日間、今年度は4月8日～10日で実施しました。地域で生活する疾病や障害のある方を対象者として迎え、3学科混成チームによるインタビュー、アセスメント、グループ討議を行い、その結果に基づく支援計画を対象者へ提案しました。

学生は、これまでの講義や臨床実習で培った知識・コミュニケーション能力に加え、保健医療総論1～3で学んだ連携能力を活用し、限られた時間の中で課題に取り組みました。1グループ約10名の学生がアセスメントと討議を重ねることで、他職種への理解を深めるとともに、自らの職種の特性や専門性、役割について理解を深めました。また、リーダーシップを発揮する学生や議論を整理する学生など、それぞれの強みを生かして役割分担を行い、対象者の状況に即した支援計画を立案・提案することができました。

科目終了時には、多くのグループから「多職種連携は、各職種の専門性を生かして対象者を多角的に理解し、包括的で質の高い支援を実現するために重要である」との意見が聞かれました。本科目で得た協働の経験が、卒業後の多様な臨床現場においてチーム連携を実践するための基盤となることを期待しています。

教員紹介（ 医療人育成センター 心理学・行動科学 准教授 鵜飼 渉 ）

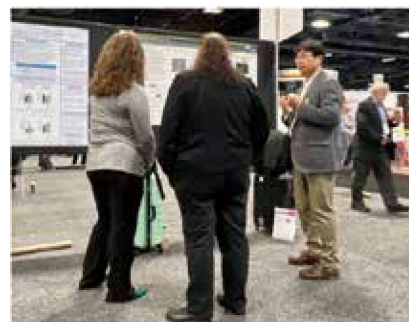


医療人育成センターの鵜飼と申します。精神医学講座、医療人育成センター（教育開発研究部門・統合IR部門）を経て、この春より当分野の教員となりました。保健医療学部では、神経科学の基礎、人間発達学、心理学概論、心理学演習、教育学、保健医療教育学特論などを担当しています。専門領域では、非言語コミュニケーション学を中心に、人の社会性、共感性、モチベーション、喜び、等についての脳神経メカニズムを解明する精神心理生物学分野の研究を進めてきました。

精神医学講座では、精神やこころの病気の新たな治療法構築に向けた取り組みを大学院生とともに進め、多くの精神疾患の病態と、やる気、愛情、生存欲求に深く関わる脳由来神経栄養因子（BDNF）の変動解析を中心に、“うつにならないためにはどうしたら良いか”の研究結果を雑誌や著書で報告しました（NHK共同研究・日本放送出版協会2004他）。次に、認知行動療法の脳メカニズムともなる大人の脳の可塑性について、“新しい記憶は新しい細胞が担う”との仮説を紹介し、うつ病の新たな病態仮説、“神経幹細胞異常仮説”を本国で初めて提唱しました（KEY WORD精神 第4版2007他）。

そこから、“なぜうつになるのか”をテーマに大学院生の指導を進め、“気分安定薬による神経分化抑制因子の減弱”（Eur J Pharmacol 2008），“アテロコラーゲンを利用した精神疾患の幹細胞治療”（J Neural Transm 2013）（国内・国際特許申請）他が学位論文となりました。このうち、“双極性障害の原因神経回路の解明研究”は、文科省の大型科研費研究となり（新学術領域研究2012-2016）、国際著書“The Neuroscience of Depression”（Elsevier 2021）の執筆へ繋がる研究となりました。さらに、統合失調症の社会性・コミュニケーション障害についての研究指導を進め、“抗精神病薬によるGABA interneuron新生能の発見”（J Psychiatr Res 2017）イタリア・ミラノ大学との国際共同研究で、“統合失調症における社会性機能回復の脳基盤解析”（J Psychiatr Res 2023）他が学位論文となりました。また、低学年からのモチベーション維持企画の勉強会や、MD-PhD学生の指導にも力を入れており、共同指導の医学部3年生の論文“強迫性障害の分子メカニズム研究の世界トレンド”が、昨年5月に受理され（Front in Psychiatr 2025）大変うれしく思いました。

授業では、各回の授業後に「感情とは気持ちのことで、脳から出るものだと思っていたけれど、物事に関する評価であると知り驚いた」、「元の状態にあるとする欲求があることで、自分たちの身が守られていることに驚いた」、「私の行動は私が決定しているとは限らないということに驚いた」などの思いと疑問の感想レポートを頂き、それを次の授業の始めにピックアップして紹介し疑問に答えていくという作業を繰り返しています。学生からは「自分と違う他者の意見が分かって貴重だった」との意見が多く、なるほどその点が改めて重要なのかと教える側の学びを得ております。保健医療総論1の学生インタビューでの、元気でやる気に満ち溢れた学生さん方の笑顔が、ずっと続く本学の学びの体制に少しでも貢献していければ幸いと思っております。



【令和8年度 後期学事予定】（1～4学年）

（4学年共通）

9月28日 ～	後期講義開始
10月 8日 ～10月10日	体育祭
12月 4日	文化芸術祭
3月 5日 ～ 3月31日	春季休業
3月19日	卒業式

（3年生）

9月14日 ～ 2月26日	臨地実習（看護）
9月28日 ～10月 9日	臨床実習（作業）
12月21日 ～ 1月 3日	冬季休業
1月18日 ～ 1月22日	後期定期試験（理学）
1月25日 ～ 2月19日	臨床実習（理学）
2月17日 ～ 3月 4日	後期定期試験（作業）

（1・2年生）

12月18日 以降の金曜日 （全5回）	臨床実習（2年生・理学）
12月21日 ～ 1月 3日	冬季休業
1月 8日 以降の金曜日 （全5回）	臨床実習（2年生・作業）
1月25日 ～ 1月29日	臨床実習（1年生）
2月 1日 ～ 2月12日	臨地実習（2年生・看護）
2月17日 ～ 3月 4日	後期定期試験（1・2年生）

（4年生）

9月 7日 ～10月23日	臨地実習（看護）
12月21日 ～ 1月 3日	冬季休業